

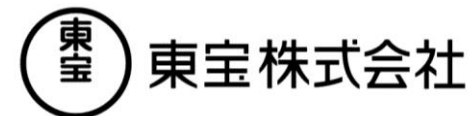
2018年2月期 第3四半期 (2017年3月1日~2017年11月30日)

# 決算説明資料



©2018「嘘を愛する女」製作委員会

2018年1月15日(月)



# 2018年2月期 第3四半期 営業概況

	2017年2月期 (2016年3月～11月)	2018年2月期 (2017年3月～11月)	前年同四半期比	増減率
営業収入	178,120百万円	<b>190,444百万円</b>	12,323百万円	6.9% <span style="color: red;">↗</span>
営業利益	41,468百万円	<b>39,887百万円</b>	▲1,580百万円	-3.8% <span style="color: green;">↘</span>
経常利益	42,528百万円	<b>41,042百万円</b>	▲1,486百万円	-3.5% <span style="color: green;">↘</span>
親会社株主に帰属する 四半期純利益	28,161百万円	<b>28,238百万円</b>	77百万円	0.3% <span style="color: red;">↗</span>

## 【第3四半期の営業概況】

主力の映画事業において、上期の当社グループ配給の豊富なヒット作品や、『君の名は。』等のパッケージ・ソフトの売り上げの好影響を受けつつ、当四半期でも興行収入10億円を超えるヒット作を積み重ね堅調に推移したことにより増収を達成。

しかしながら前期に比べ利益貢献度の高い自社幹事の作品が少なく、減益。

演劇事業では『JOHNNYS' YOU&ME ISLAND』『レディ・ベス』などの話題作が盛況となり、増収増益。

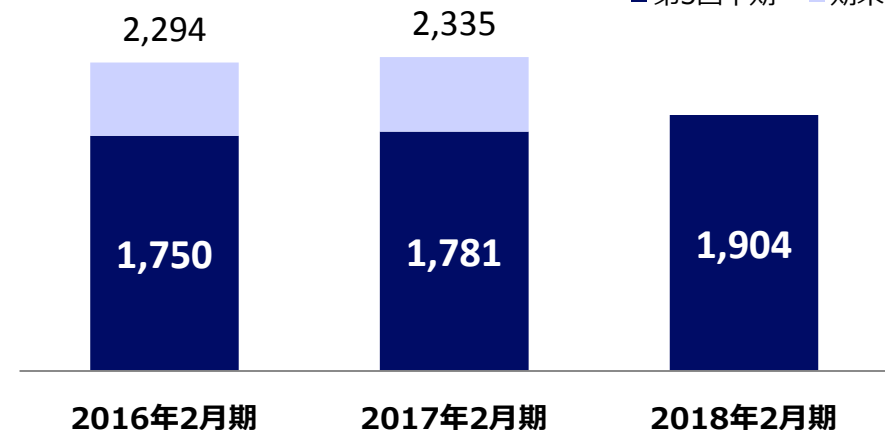
不動産事業では所有物件の空室率も低く高水準に推移したが、日比谷シャンテのリニューアル工事等により減収減益。

その結果、第3四半期としては営業収入は過去最高。固定資産売却等の特別利益を計上したことにより親会社株主に帰属する四半期純利益においても過去最高を達成。

# 営業概況3力年比較

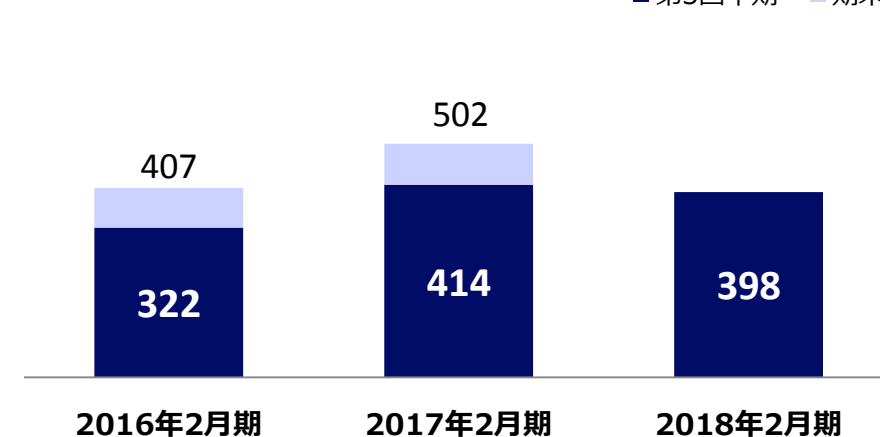
## 営業収入

■ 第3四半期 ■ 期末



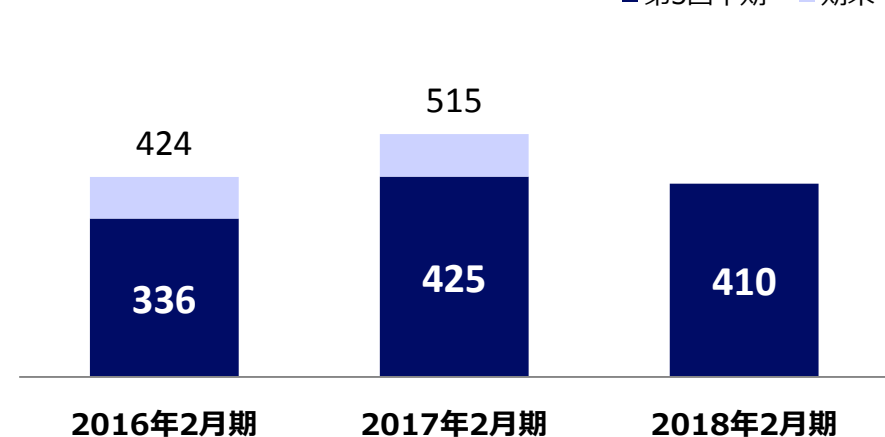
## 営業利益

■ 第3四半期 ■ 期末



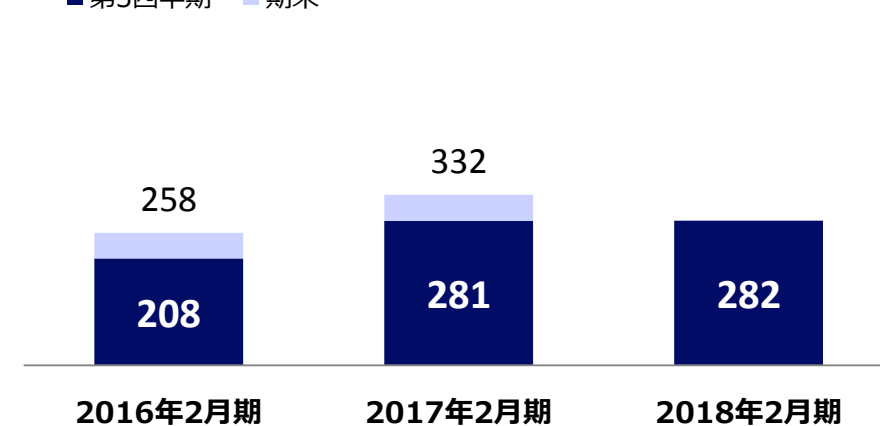
## 経常利益

■ 第3四半期 ■ 期末



## 親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益

■ 第3四半期 ■ 期末



(単位：億円)

# セグメント別業績一覧

	営業収入 (単位:百万円)			営業利益 (単位:百万円)		
	2017年2月期 (2016年3月~11月)	<b>2018年2月期</b> <b>(2017年3月~11月)</b>	増減率(%)	2017年2月期 (2016年3月~11月)	<b>2018年2月期</b> <b>(2017年3月~11月)</b>	増減率(%)
<b>①映画事業</b>	119,810	<b>128,535</b>	7.3% <span style="color:red">↗</span>	28,857	<b>27,523</b>	-4.6% <span style="color:green">↘</span>
映画営業	37,214	<b>38,495</b>	3.4% <span style="color:red">↗</span>	13,112	<b>10,488</b>	-20.0% <span style="color:green">↘</span>
映画興行	60,634	<b>59,637</b>	-1.6% <span style="color:green">↘</span>	9,760	<b>9,198</b>	-5.8% <span style="color:green">↘</span>
映像事業	21,961	<b>30,402</b>	38.4% <span style="color:red">↗</span>	5,985	<b>7,835</b>	30.9% <span style="color:red">↗</span>
<b>②演劇事業</b>	10,745	<b>11,933</b>	11.1% <span style="color:red">↗</span>	2,179	<b>2,454</b>	12.6% <span style="color:red">↗</span>
<b>③不動産事業</b>	46,852	<b>46,817</b>	-0.1% <span style="color:green">↘</span>	12,935	<b>12,526</b>	-3.2% <span style="color:green">↘</span>
不動産賃貸	24,149	<b>22,358</b>	-7.4% <span style="color:green">↘</span>	10,348	<b>9,357</b>	-9.6% <span style="color:green">↘</span>
道路事業	15,383	<b>17,067</b>	10.9% <span style="color:red">↗</span>	1,898	<b>2,489</b>	31.1% <span style="color:red">↗</span>
不動産保守・管理	7,319	<b>7,392</b>	1.0% <span style="color:red">↗</span>	688	<b>679</b>	-1.4% <span style="color:green">↘</span>
<b>④その他事業</b>	711	<b>3,157</b>	343.5% <span style="color:red">↗</span>	82	<b>134</b>	61.9% <span style="color:red">↗</span>

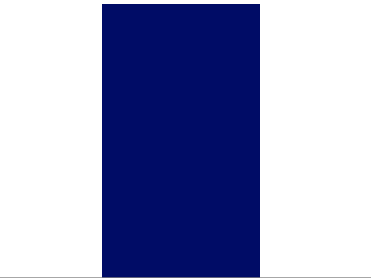
# セグメント別業績【映画事業】

## 営業収入

119,810



128,535



2017年2月期 (2016年3月~11月)

2018年2月期(2017年3月~11月)

## 営業利益

28,857



27,523



2017年2月期 (2016年3月~11月)

2018年2月期(2017年3月~11月)

(単位：百万円)

## 業績分析 (増減要因)

- 映画営業事業では、当社幹事作品『亜人』や、『三度目の殺人』『ナラタージュ』『ミックス。』『ラストレシピ ～麒麟の舌の記憶～』が興行収入10億円を超えるヒットを記録したが、前年に大ヒットした『君の名は。』『シン・ゴジラ』といった利益貢献度の高い自社幹事作品がなく、第3四半期累計では増収ながら減益。
- 映画興行事業では、当社グループ配給作品に加えて『IT/イット “それ”が見えたら、終わり。』『ダンケルク』（ワーナー・ブラザーズ）等のスマッシュヒットがあったが、前年のようなヒット作品に恵まれず減収減益。  
11月には「TOHOシネマズ 上野」（8スクリーン約1,400席）、「TOHOシネマズ 赤池」（10スクリーン約1,700席）をオープン。
- 映像事業では、アニメ制作事業にて人気コミック『宝石の国』の初アニメ化、『血界戦線 & BEYOND』の製作・放映を実施、加えて初のアニメーション映画『GODZILLA 怪獣惑星』を3部作の第1弾として製作するなどした結果、上半期のパッケージ・ソフトの好調もあり、増収増益。  
また、10月にゴジラグッズショップ常設店「ゴジラ・ストア Tokyo」を新宿マルイアネックスに開業し、ゴジラの新たなファンの拡大に努めた。

# 映画 - 第3四半期 稼働作品 -

当社配給作品（興行収入10億円以上）

（興行収入は2017年12月末時点）

作品名	公開月	興行収入
三度目の殺人	2017年9月	14.6億円
ミックス。	2017年10月	14.5億円
亜人	2017年9月	14.4億円
ナラタージュ	2017年10月	12.5億円
ラストレシピ ～麒麟の舌の記憶～	2017年11月	10.9億円



『三度目の殺人』 ©2017 フジテレビジョン アミューズ ギャガ



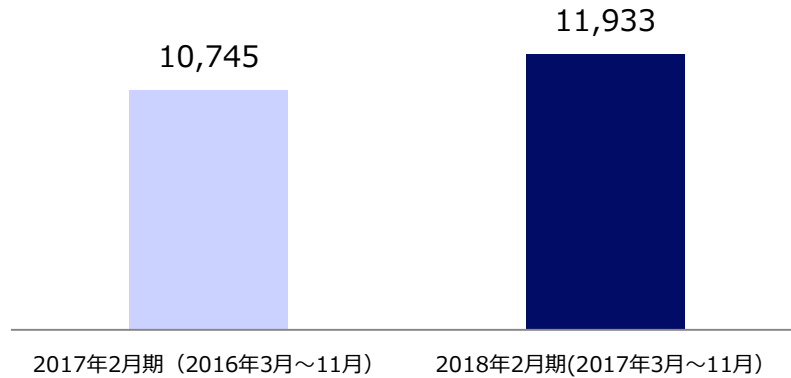
『ミックス。』 ©2017「ミックス。」製作委員会



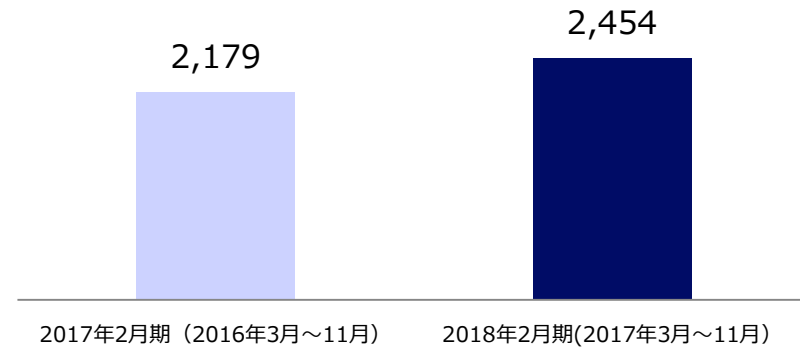
『亜人』 ©2017映画「亜人」製作委員会 ©桜井画門ノ講談社

# セグメント別業績【演劇事業】

## 営業収入



## 営業利益



(単位：百万円)

## 業績分析 (増減要因)

- 帝国劇場では、『JOHNNYS' YOU&ME ISLAND』(9月公演) が全席完売公演。新キャストを迎え3年ぶりとなった『レディ・ベス』(10月～11月公演) も幅広い観客層を動員し、好成績。
- シアタークリエでは、『ダディ・ロング・レッグズ ～足ながおじさんより～』(11月公演) がファン層の支持を得て大入り。その他、『ミッドナイト・イン・バリ ～史上最悪の結婚前夜～』(9月公演) や『誰か席に着いて』(11月公演) 等、バラエティに富んだラインナップを提供。
- 日生劇場では、A.B.C-Z主演『ジャニーズ伝説2017』(10月公演) が全席即日完売となる大成功。博多座・新歌舞伎座の『夫婦漫才』(11月公演) 等の社外公演も好調に推移し、演劇事業全体として増収増益。



# 演劇事業 - 主要稼働作品 -



2017年9月 帝国劇場公演  
『JOHNNYS' YOU & ME ISLAND』



2017年10月 日生劇場公演  
『ジャニーズ伝説2017』



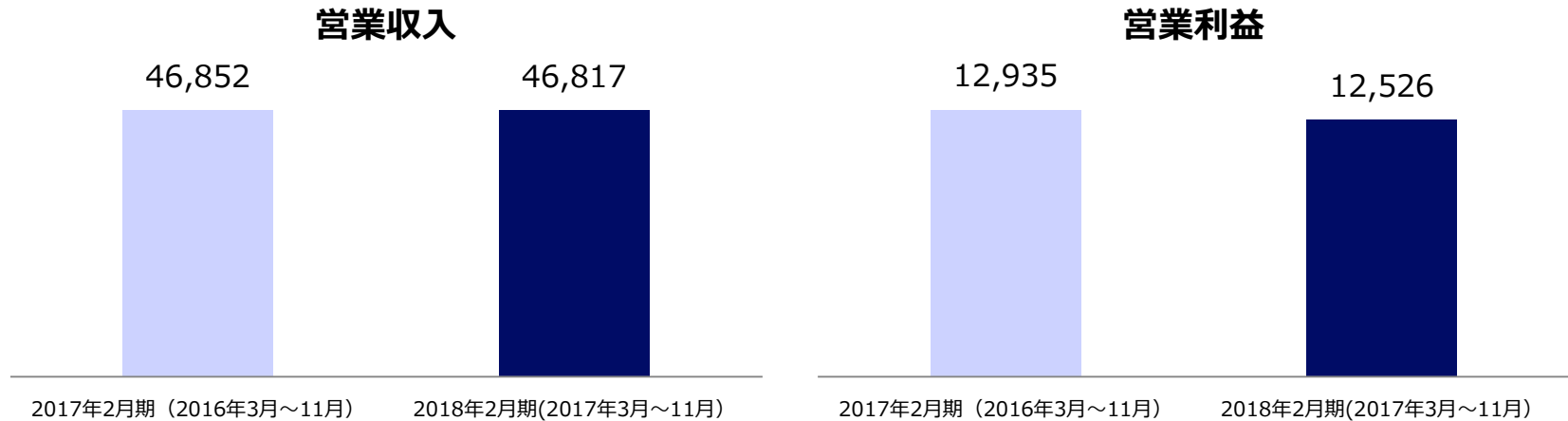
2017年10月8日(日)～11月18日(土) 一般発売期 10月9・7月8日(土) / 11月9・7月15日(土)  
2017年10月～11月 帝国劇場公演  
『レディ・ベス』



2017年11月 シアタークリエ公演  
『ダディ・ロング・レッグズ  
～足ながおじさんより～』



# セグメント別業績【不動産事業】



(単位：百万円)

## 業績分析 (増減要因)

- 不動産賃貸事業では、保有する全国の賃貸物件はほぼ空室なく高水準に稼働するも、日比谷シャンテのリニューアル工事等の影響もあり前期に及ばず、減収減益。  
東宝スタジオは、当社配給作品の撮影やTV・CM撮影の誘致によりステージレンタルが順調に稼働。
- 道路事業では、積極的な営業活動により、高速道路をはじめとする維持作業・補修工事の受注に努めるとともに、既存工事の増工や追加受注を積み重ねた。また、原価管理の徹底によるコストの削減を図り、業務の効率化による収益性を高め、増収増益。
- 不動産保守・管理事業では、(株)東宝サービスセンター、東宝ビル管理(株)が労務費や資材価格の高騰など厳しい経営環境が続く中、新規受注の開拓とコスト削減に取り組み、堅調に推移し増収なるもわずかに減益。

## 映画 & 演劇 話題の待機作品



# MOVIE LINE UP



**2018年1月20日（土）ロードショー**

「愛さても、嘘ですか？」もし、知り尽くしていたはずの愛する人の素性が全て嘘だったら……。長澤まさみ、高橋一生ら豪華俳優陣で贈る、あなたの「愛」の概念を覆す新感覚ラブストーリー。

## 『嘘を愛する女』

監督：中江和仁 脚本：中江和仁 近藤希実  
出演：長澤まさみ 高橋一生 吉田鋼太郎  
主題歌：松たか子「つなぐもの」(アリオラジャパン)  
©2018「嘘を愛する女」製作委員会



**2018年3月3日（土）ロードショー**

前作が新シリーズ最高の興行収入を記録したドラえもんの新作が、今年も登場！宝島に隠された宝を巡る、ドラえもん史上最大の冒険が始まる！

## 『映画ドラえもん のび太の宝島』

原作：藤子・F・不二雄  
監督：今井一暁 脚本：川村元気  
主題歌&挿入歌：星野源  
©藤子プロ・小学館・テレビ朝日・シンエイ・ADK 2018



**2018年3月10日（土）ロードショー**

青春を経験したすべてのひとに贈る、運命を変えてしまう出会いから始まる10年の物語。一生ものの友情に、恋に、音楽に、あなたは必ず涙する一。

## 『坂道のアポロン』

原作：小玉ユキ「坂道のアポロン」(小学館「月刊flowers」FCa刊)  
監督：三木孝浩 脚本：高橋泉  
出演：知念侑李 中川大志 小松菜奈  
©2018 映画「坂道のアポロン」製作委員会 ©2008 小玉ユキ／小学館

# STAGE LINE UP



2018年2月~3月 帝国劇場公演  
『Endless SHOCK』



2018年2月 シアタークリエ公演  
『FUN HOME ファン・ホーム ある家族の悲喜劇』



2018年3月 シアタークリエ公演  
『マディソン郡の橋』



2018年2月 日生劇場公演  
『ブロードウェイと銃弾』



# 業績予想・配当予想

## ■ 2018年（平成30年）2月期連結業績予想（平成29年3月1日～平成30年2月28日）

（%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円・銭
2018年2月期（予想）	235,300	45,000	46,900	32,200	178.33
前期実績増減率（%）	0.7% <span style="color: red;">↗</span>	-10.4% <span style="color: green;">↘</span>	-9.0% <span style="color: green;">↘</span>	-3.2% <span style="color: green;">↘</span>	
（ご参考） 2017年2月期実績	233,548	50,223	51,562	33,252	182.72

## ■ 配当予想

当期の業績は、前期の『君の名は。』等のメガヒット作品はないものの、主力の映画事業を中心に、演劇事業、不動産事業も堅調に推移し、「TOHO VISION 2018 東宝グループ 中期経営戦略」で掲げる営業利益目標を上回る見通しとなっております。こうした状況を踏まえ、2018年2月期の1株当たりの期末配当金は、当初12.5円を予想しておりましたが特別配当20円を増額し、32.5円に修正することといたしました。この結果、1株当たりの年間配当金は45円（前期実績45円）となる予定です。

	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年2月期(実績)	—	12.50	—	—	—
2018年2月期(予想)	—	—	—	32.50	45.00
（ご参考） 2017年2月期実績	—	12.50	—	32.50	45.00

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承ください。  
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問い合わせ  
東宝株式会社  
総務部 広報・IR室  
TEL 03-3591-1303